



N1 Grid Service Provisioning System 5.0 ユーザーガイド (Solaris Plug-In)

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-1545-10
2004 年 12 月

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリコービイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。© Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政事業庁が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド '98』に添付のものを使用しています。© 1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DiComboBox ウィジェットと DtSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(© 1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されず、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: N1 Grid Service Provisioning System 5.0 User's Guide for the Solaris Plug-In

Part No: 819-0413-10

Revision A



050203@10536



目次

はじめに	5
1 Solaris Plug-In の概要	9
Solaris Plug-In の目的	9
ゾーン分割の概要	9
Solaris Plug-In に含まれる項目	10
Solaris Plug-In の使用要件	11
配備サーバーの要件	11
ターゲットホストの要件	11
2 Solaris Plug-In のインストールと構成	13
Solaris Plug-In の取得	13
Solaris Plug-In の N1 Grid Service Provisioning System への追加	13
環境に合わせたソリューションのカスタマイズ	14
3 Solaris Plug-In の使用	15
Solaris ゾーンの作成と管理	15
▼ ホストを大域ゾーンとして識別する	15
▼ Solaris ローカルゾーンを作成する	16
CLI を使用して Solaris ゾーンを操作する	17
コンポーネントタイプ	18
コンポーネント	18
Container コンポーネント	18
プラン	19
ホストと Solaris ゾーン	20

大域ゾーンホストセット	20
大域ゾーンホスト検索	20
大域ゾーンホストタイプ	20
ローカルゾーンホストタイプ	20
トラブルシューティング	20

索引	23
----	----

はじめに

このマニュアルでは、N1 Grid Service Provisioning System のインストールと構成について説明します。また、N1 Grid Service Provisioning System を使用して Solaris™ 10 ゾーンをプロビジョニングする方法についても説明します。

対象読者

このマニュアルは、Solaris 10 ゾーンの機能性と N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアを統合したいと考えている N1 Grid Service Provisioning System 5.0 ソフトウェアのシステム管理者およびオペレータを対象にしています。対象読者は、次の知識があることを前提とします。

- N1 Grid Service Provisioning System 5.0 製品
- 標準の UNIX® および Microsoft Windows コマンドとユーティリティ
- Solaris 10 ゾーンに関連する一般的な概念

お読みになる前に

N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアの使用経験がない場合は、次のマニュアルの一読をお勧めします。

- 『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 システム管理者ガイド』
- 『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 オペレーションとプロビジョニングガイド』
- 『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 リリースノート』

このマニュアルの構成

第 1 章 Solaris Plug-In の概要について説明します。

第 2 章 Solaris Plug-In のインストールと構成方法について説明します。

第 3 章 Solaris Plug-In で提供される特定のコンポーネントとプランを使用する方法について説明します。

Sun のオンラインマニュアル

docs.sun.com では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。URL は、<http://docs.sun.com> です。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
<code>AaBbCc123</code>	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 <code>system%</code>
<code>AaBbCc123</code>	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	<code>system% su</code> <code>password:</code>
<i><code>AaBbCc123</code></i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、 <code>rm filename</code> と入力します。

表 P-1 表記上の規則 (続き)

字体または記号	意味	例
『』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第5章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	<pre>sun% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING'</pre>

コード例は次のように表示されます。

■ C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

■ C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

一般規則

- このマニュアルでは、「x86」という用語は、Intel 32 ビット系列のマイクロプロセッサチップ、および AMD が提供する互換マイクロプロセッサチップを意味します。

第 1 章

Solaris Plug-In の概要

この章では、N1 Grid Service Provisioning System を使用した Solaris コンテナ のプロビジョニングについて説明します。この章では、次の情報について説明します。

- 9 ページの「Solaris Plug-In の目的」
- 10 ページの「Solaris Plug-In に含まれる項目」
- 11 ページの「Solaris Plug-In の使用要件」

Solaris Plug-In の目的

Solaris Plug-In は、Container コンポーネントを N1 Grid Service Provisioning System に追加します。このコンポーネントを使用して、プロビジョニングソフトウェアから Solaris 10 ゾーンを作成し、管理することができます。

ゾーン分割の概要

Solaris ゾーン分割技術は、オペレーティングシステムサービスを仮想化し、アプリケーションを分離された安全な環境で実行するために使用されます。ゾーンは、仮想化されたオペレーティングシステム環境であり、単一の Solaris オペレーティングシステム内に作成されます。ゾーンを作成することで、プロセスをシステムのほかの部分から分離するアプリケーション実行環境が生成されます。この分離によって、あるゾーン内で実行されているプロセスは、別のゾーンで実行されているプロセスからの監視や影響を受けません。スーパーユーザー資格で実行しているプロセスでさえ、ほかのゾーンのアクティビティを表示したり、影響を与えることはありません。

ゾーンは、Solaris 10 リリースを実行する任意のマシンで実行できます。すべてのゾーンで実行されるアプリケーションソフトウェアの総リソース要件により、単一ホストで実際にいくつのゾーンをホストできるかが決まります。Solaris ゾーンの詳細については、『*System Administration Guide: Solaris Containers—Resource Management and Solaris Zones*』のパート II 「Zones」を参照してください。

Solaris Plug-In に含まれる項目

Solaris Plug-In には、次の項目が含まれます。

Container コンポーネント

ゾーンの作成と管理に使用される主コンポーネント。詳細については、18 ページの「Container コンポーネント」を参照してください。

container_util.tar ファイル

ゾーンのユーティリティスクリプトが含まれるコンポーネント

containerUtil コンポーネント

zone_util.tar ファイルを大域ゾーンにインストールするコンポーネント

Container-create プラン

ゾーンを作成するプラン

Container-attach プラン

ゾーンをアタッチするプラン

Container-delete プラン

ゾーンを削除するプラン

Container-detach プラン

ゾーンをデタッチするプラン

Container-activate プラン

ゾーンをアクティブ化するプラン

Container-deactivate プラン

ゾーンを非アクティブにするプラン

solaris フォルダ

ゾーンのためのプランが含まれるフォルダ

com.sun.solaris#global_zones ホストセット

大域ゾーンのためのホストセット

com.sun.solaris#global_zones ホスト検索

大域ゾーンのためのホスト検索

com.sun.solaris#global_zone ホストタイプ

大域ゾーンのためのホストタイプ

com.sun.solaris#local_zone ホストタイプ

ローカルゾーンのためのホストタイプ

Solaris Plug-In の使用要件

配備サーバーの要件

Solaris 10 ゾーンを配備するには、N1 Grid Service Provisioning System の次の 2 つのパーツが、配備する予定のマスタサーバーにインストールされていることを確認してください。

- CLI (コマンド行インタフェース)
- リモートエージェント (RA)

ターゲットホストの要件

Solaris 10 ゾーンを配備する予定のホストは、次の要件を満たす必要があります。

- Solaris 10 オペレーティングシステムを実行する
- ゾーンをホストするためのオペレーティングシステム要件を満たす

第 2 章

Solaris Plug-In のインストールと構成

この章では、次の項目について説明します。

- 13 ページの「Solaris Plug-In の取得」
- 13 ページの「Solaris Plug-In の N1 Grid Service Provisioning System への追加」
- 14 ページの「環境に合わせたソリューションのカスタマイズ」

Solaris Plug-In の取得

Solaris Plug-In は、N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアへのプラグインとしてパッケージ化されます。プラグインは、Java™ Archive (JAR) ファイルにパッケージ化されています。Solaris Plug-In のプラグインファイルは、N1 Grid Service Provisioning System 5.0 Supplement CD からインストールするか、Sun ダウンロードセンターから入手できます。

Solaris Plug-In の N1 Grid Service Provisioning System への追加

指定のプラグインを N1 Grid Service Provisioning System 製品に認識させるには、プラグインをインポートする必要があります。プラグインは、『*N1 Grid Service Provisioning System 5.0 システム管理者ガイド*』の第 5 章「プラグインの管理」で説明する手順に従ってインポートしてください。

1. ブラウザインタフェースメインウィンドウの「Administrative」セクションで、「Plug-ins」をクリックします。

2. 「Plug-ins」ページの「Action」カラムで、「Import」をクリックします。
3. `com.sun.solaris_1.0.jar` ファイルをダウンロードした場所へ移動します。
4. 「Continue to Import」ボタンをクリックします。

インポートが正常に終了したら、プラグインの詳細ページが現れ、プラグインによって提供されるオブジェクトが表示されます。

プラグインアーカイブファイルは、コマンド行からインポートすることもできます。次のコマンドを使用します。

```
% cr-cli -cmd plg.p.add -path com.sun.solaris_1.0.jar -u username -p password
```

環境に合わせたソリューションのカスタマイズ

デフォルトでは、マスタサーバー用の構成ファイルは、次のディレクトリにあります。

```
/opt/SUNWn1sps/N1_Grid_Service_Provisioning_System_5.0/server/config
```

Solaris ゾーンをマスタサーバーから配備する前に、次の行を `config.properties` ファイルに追加する必要があります。

```
config.allowSessionIDOnHosts=masterserver  
pe.defaultPlanTimeout=6000
```

`config.allowSessionIDOnHosts` 変数は、N1 Grid Service Provisioning System リモートエージェント/CLI インタフェース経由でマスタサーバーと通信するためのプラグインを有効にします。

デフォルトでは、プランのタイムアウト値は、1800 秒または 30 分に設定されています。古いハードウェアでプランを実行している場合など、一部のインスタンスは、プランを完了するまでに 30 分以上を必要とします。プランのタイムアウト値を増分するには、`pe.defaultPlanTimeout` 行を `config.properties` ファイルに追加します。上記の例では、値は 100 分に設定されています。

注 - `config.properties` ファイルを変更した場合は、マスタサーバーを再起動する必要があります。

第 3 章

Solaris Plug-In の使用

この章では、Solaris Plug-Inで提供される特定のコンポーネントおよびプランを使用する方法について説明します。この章では、次の内容について説明します。

- 15 ページの「Solaris ゾーンの作成と管理」
- 18 ページの「コンポーネントタイプ」
- 18 ページの「コンポーネント」
- 19 ページの「プラン」
- 20 ページの「ホストと Solaris ゾーン」

Solaris ゾーン の作成と管理

ソフトウェアの「Common Tasks」ページを使用して、Solaris 10 ゾーン の作成と管理を行えます。

▼ ホストを大域ゾーンとして識別する

大域ゾーンは、個々のゾーンが定義されるホストです。ローカルゾーンを作成する前に、ホストセット `com.sun.solaris#global_zones` に含まれるように定義されたホストが少なくとも1つ必要です。この手順では、ホストを大域ゾーンとして識別する方法について説明します。

- 手順
1. 左コントロールパネルの「**Hosts Setup**」セクションから「**Hosts**」を選択します。
 2. 大域ゾーン (**container**) として作成するホストの名前を「**Name field**」に入力して、「**Create**」をクリックします。
 3. 「**com.sun.solaris#global_zone**」を「**host type**」メニューから選択します。

4. 必要に応じて、属性の値を変更します。
たとえば、接続タイプを RAW (デフォルト) から SSH または SSL に変更します。

注 - ローカルゾーン接続に SSH を使用するには、ポートを 70000 に設定します。

5. 適切なチェックボックスをクリックして、物理ホスト上のリモートエージェントまたはローカルディストリビュータを含めます。

▼ Solaris ローカルゾーンを作成する

- 手順
1. 左コントロールパネルの「**Common Tasks**」セクションの下にある **Sun Solaris** アイコンを選択します。
 2. 「**Solaris Containers:Create and Manage link**」を選択します。
 3. 「**Create:Install**」の横にある「**Run action**」をクリックします。
 4. ローカルゾーンを作成するターゲットホストを選択します。

注 - ターゲットホストは、`com.sun.solaris#global_zones` ホストセットのメンバーでなければなりません。

5. **Plan Variables** 設定からローカルゾーンホストの名前を選択します。
希望のローカルゾーン名が表示されていない場合は、新しいゾーン名を作成できます。新しいゾーン名を作成する場合は、次の手順に従います。
 - a. 「**plan variable settings**」表で「**Select From List**」をクリックします。
 - b. 「**Variable Setting**」ウィンドウで、「**Create Set**」をクリックします。
 - c. 「**New Set Name**」フィールドに、新しいゾーン名を入力します。
 - d. 「**Zone Name**」プロンプトの横にあるボックスをクリックして、新しいゾーン名を入力します。

注 - ローカルゾーンの作成時に、ゾーン名はネットワーク **Zone Host Names** になります。**Zone Host Names** は、一致する利用可能なローカルネットワーク IP アドレスに解決されます。

6. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

CLI を使用して Solaris ゾーンを操作する

デフォルトで N1 Grid Service Provisioning System コマンド行インタフェースは、次のディレクトリにあります。

```
/opt/SUNWn1sps/N1_Grid_Service_Provisioning_system_5.0/cli/bin/cr_cli
```

Container プロシージャを実行する Solaris ゾーンプラグインのプランは、`/com/sun/solaris/zones` フォルダにあります。

例 3-1 CLI を使用した Solaris ゾーンの作成

この例は、N1 Grid Service Provisioning System コマンド行インタフェースを使用して、Solaris ゾーンを作成する方法を示しています。この例には、コマンドセグメントが3つ含まれています。すべてのコマンドで `spsadmin` サンプルユーザー名と `x1y2z3` サンプルパスワードが使用されています。

最初のコマンドは、大域ゾーン用のホストを `server10` に作成し、`local_zone_default_name`、`local_zone_connection_type`、および `local_zone_port` 変数のデフォルト値を定義します。

```
% cr_cli -cmd hdb.h.mod                               host modify
  -ID "NM:server10"                                   target global host
  -tID "NM:com.sun.solaris#global_zone"              host type
  -attr "local_zone_default_name=server10_z1;
        local_zone_connection_type=RAW;
        local_zone_port=1131"                        local zone attributes
  -u spsadmin                                         user name
  -p x1y2z3                                           password
```

2 番目のコマンドは、デフォルト値を使用してローカルゾーンを作成します。

```
% cr_cli -cmd pe.p.run                                plan execution
  -PID "NM:/com/sun/solaris/Container-create"        create zone plan ID
  -tar "H:NM:server10"                               target global host
  -vs "+"                                             default var set "default set"
  -comp "+"                                           default component "latest build"
  -pto 6000                                           plan time 1 hr max [6000 secs]
  -nto 6000                                           call time 1 hr max [6000 secs]
  -u spsadmin                                         user name
  -p x1y2z3                                           user password
```

3 番目のコマンドは、ローカルゾーンをアクティブ化します。

```
% echo "server10_z1" | cr_cli -cmd pe.p.run          plan execution, std input is zone name
  -PID "NM:/com/sun/solaris/Container-activate"     attach zone plan ID
  -tar "H:NM:server10"                               target global host
  -f "-"                                              standard input args
  -pto 6000                                           plan time 1 hr max [6000 secs]
  -nto 6000                                           call time 1 hr max [6000 secs]
  -u spsadmin                                         user name
  -p x1y2z3                                           user password
```

コンポーネントタイプ

Solaris コンテナ用に特定のコンポーネントタイプはありません。ただし、いくつかの特定のホストタイプは、Solaris コンテナに関連します。詳細については、20 ページの「ホストと Solaris ゾーン」を参照してください。

コンポーネント

Container コンポーネント

Container コンポーネントは、Solaris プラグインで提供される主コンポーネントです。Container コンポーネントは、アンタイプコンポーネントです。

Container コンポーネントは、いくつかのプロシージャーを含んでいます。これらのプロシージャーは、N1 Grid Service Provisioning System インタフェースから、または実行プラン内から直接実行できます。

create プロシージャー

Container コンポーネントを作成することで、対応するローカル Solaris 10 ゾーンが作成されます。このプロシージャーのホストターゲットは、プロビジョニングソフトウェアのリモートエージェントを実行する Solaris 10 ホストになります。ターゲットホストタイプは、`com.sun.solaris#global_zone` に設定する必要があります。create プロシージャーは、Solaris 10 `zonecfg` および `zoneadm` コマンドを使用して、Solaris 10 大域ゾーンからローカルの Solaris 10 ゾーンを構成し、インストールします。インストール後、このプロシージャーはリモートエージェントを新しく作成したローカルゾーンにインストールします。ホストページに、`com.sun.solaris#local_zone` タイプの新しいホストが表示されます。

Attach プロシージャー

このプロシージャーは、create プロシージャーと似ていますが、ゾーンは作成しません。代わりに、プロシージャーはホスト上の既存のローカルゾーンにアタッチします。このプロシージャーは、Container コンポーネントをプロビジョニングソフトウェアデータベースに作成し、リモートエージェントを既存のローカルゾーンにインストールします。attach プロシージャーは、N1 Grid Service Provisioning System 以外のツールでゾーンが作成された場合に便利です。たとえば、ゾーンが Solaris API 経由で直接作成された場合、または別のソフトウェア管理アプリケーションによって作成された場合は、attach プロシージャーを使用する必要があります。

Detach プロシージャ

detach プロシージャは delete プロシージャに似ています。このプロシージャは、Container コンポーネントをプロビジョニングソフトウェアデータベースから削除して、リモートエージェントをアンインストールします。ただし、ローカルゾーンは、大域ゾーンホストから削除されません。ローカルゾーンがブートされると、それはブートされたままです。ローカルゾーンが停止されると、それは停止されたままです。

Activate プロシージャ

このプロシージャは、ローカルゾーンをアクティブ化 (ブート) します。ターゲットの Solaris 10 ホストにインストールされている Container コンポーネントのリストから、ゾーンを選択できます。プロシージャは、`zoneadm -z zonename boot` コマンドを使用します。このプロシージャは、準備されていないホスト用にプロビジョニングソフトウェアのホスト準備を開始します。

Deactivate プロシージャ

このプロシージャは、ローカルゾーンを非アクティブ化 (停止) します。ターゲットの Solaris 10 ホストにインストールされている Container コンポーネントのリストから、ゾーンを選択できます。プロシージャは、`zoneadm -z zonename halt` コマンドを使用します。

Delete プロシージャ

delete プロシージャは、Solaris 10 `zonecfg` および `zoneadm` コマンドを使用して、大域ゾーンホストから指定の Solaris 10 ローカルゾーンを削除します。このプロシージャは、タイプする Container コンポーネントをプロビジョニングソフトウェアデータベースから削除します。

プラン

Container コンポーネント用に記述された各プロシージャについては、関連するプランが `/com/sun/solaris/plan` フォルダに用意されています。これらのプランは、コマンド行のシェル呼び出しと共に使用するのに便利です。例 3-1 を参照してください。

ホストと Solaris ゾーン

Solaris Plug-In には、Solaris 10 ゾーン用に特定のホストセット、ホスト検索、およびの 2 つのホストタイプが含まれています。

大域ゾーンホストセット

ゾーンをインストールするホストはすべて、大域ゾーンホストセットのメンバーでなければなりません。この関連性を保証するためには、ターゲットホストのホストタイプを `com.sun.solaris#global_zone` に設定します。

大域ゾーンホスト検索

大域ゾーンホスト検索は、大域ゾーンであるホストと一致する検索文字列を提供します。

大域ゾーンホストタイプ

ゾーンをインストールする物理ホストは、ホストタイプが `com.sun.solaris#global_zone` でなければなりません。

ローカルゾーンホストタイプ

Container コンポーネントを大域ゾーンホストにインストールする場合、プロビジョニングソフトウェアはホストタイプ `com.sun.solaris#local_zone` を作成します。

トラブルシューティング

Solaris ゾーンをプロビジョニングソフトウェアを使用して管理する上で問題が生じた場合、問題が存在することを伝えるメッセージが画面上に表示されます。

たとえば、大域ゾーンとして認識されていないターゲットホストにローカルゾーンを作成しようとする、次のようなメッセージが表示されます。

Problems encountered during plan run or preflight

The plan (or preflight) `"/system/autogen/Container-inst-create-1098225529078"` finished with 1 failed host(s).

The specified target host `"masterserver"` was not in the required host set `"com.sun.solaris#global_zones"` for component `"/com/sun/solaris/Container"`.

この例のメッセージは、簡単に判読できますが、すべてのメッセージがわかり易いとは限りません。特定の問題に関してより多くの情報を見つけるには、「Details」リンクをたどってください。

索引

A

activate プロシージャー, 19
attach プロシージャー, 18

C

CLI を使用してゾーンを作成する, 17
Container コンポーネント, 18-19
create プロシージャー, 18

D

deactivate プロシージャー, 19
delete プロシージャー, 19
detach プロシージャー, 19

J

JAR ファイル, 13
Java Archive, 「JAR ファイル」を参照

S

SPS 上の大域ゾーン, 15-16
SPS 上のローカルゾーン, 16

そ

ゾーン
大域, 15-16
とCLI, 17
の定義, 9
ローカル, 16
ゾーンプラグイン
インポートする, 13-14
構成, 14
ターゲットホストの要件, 11
パーツ, 10
配備サーバーの要件, 11

た

ターゲットホストの要件, 11
大域ゾーンホスト検索, 20
大域ゾーンホストセット, 20
大域ゾーンホストタイプ, 20
大域ゾーンを識別する, 15-16
タイムアウト値, 14

は

配備サーバーの要件, 11

ふ

プラグインファイル
インポートする, 13-14

プラグインファイル (続き)
の場所, 13
プラグインをインポートする, 13-14
プラグインを構成する, 14

ほ

ホストタイプ
大域ゾーン, 20
ローカルゾーン, 20

ろ

ローカルゾーンホストタイプ, 20
ローカルゾーンを作成する, 16